



地域の心・腎セーフティネット 腎循環器センター

Kidney and Cardiovascular Center



All-round

Cooperation

Easy-access



公益社団法人 京都保健会



京都民医連中央病院

腎循環器センター長 腎・透析科科长

木下 千春 (平成8年・島根大学卒)

専門分野: 腎臓・透析内科

日本内科学会認定医/日本透析医学会指導医/日本腎臓学会
専門医/日本糖尿病学会/日本透析医会/糖尿病協会登録医



心臓と腎臓はお互いに深く関係しているため「心腎連関」という言葉があり、注目されています。心疾患を持つ患者様は腎障害をおこしやすく、腎臓病を持つ患者様は心血管疾患のリスクが高いとされています。どんな患者様も (All-round)、総合的・包括的な視点で (All-round)、院内連携はもちろん、地域の先生との連携を大切にしながら

(Cooperation)、かかりやすさ、アクセスのしやすさを追求し

(Easy-access)、この地域の心・腎セーフティネットとして機能していけるようにと腎循環器センターを開設しました。

心腎連関



腎・透析科



救急総合内科科長

神田 千秋

総合内科専門医/日本腎臓学会指導医/日本透析医学会認定医・専門医/日本透析医会/日本脈管学会



集中治療科科長

井上 賀元

総合内科専門医/日本救急医学会ICLSコース認定ディレクター/認定ICD/日本透析医学会/日本腎臓学会専門医/日本集中治療医学会



腎・透析科医長

神田 陽子

日本内科学会認定医/日本透析医学会/日本腎臓学会

循環器内科



院長

吉中 丈志

総合内科専門医/日本循環器学会専門医/日本心臓病学会/日本心血管インターベンション学会



春日診療所所長

高橋 朗

日本循環器学会



循環器内科科長

林 賢三

日本内科学会認定医/日本循環器学会専門医/日本心血管インターベンション学会



救急科科長

四方 典裕

総合内科専門医/日本循環器学会専門医/日本老年医学会専門医



循環器内科医長

藤野 高久

日本内科学会認定医/日本循環器学会/日本心血管インターベンション学会/日本透析医学会/日本救急医学会認定ICLSコースディレクター



鳥橋 貞好

日本内科学会認定医



鶴岡 歩

日本循環器学会/日本心血管インターベンション学会/日本集中治療医学会

泌尿器科



泌尿器科科長
前川 幹雄

日本泌尿器科学会指導医・認定医



細川 典久

日本泌尿器科学会専門医/日本透析医学会専門医

後期研修医



泌尿器科
尾崎 慎司



内科
三浦 拓郎

腎・透析科のご案内

日本腎臓学会研修施設

日本透析医学会認定医制度教育関連施設

当院では検尿異常に対する診断・治療から末期腎不全までtotalに腎疾患の治療・管理を行っています。循環器内科との日常的な連携はもちろんのこと、総合内科的視点で病状・病態をとらえ、必要に応じ他科専門医と連携して診療にあたります。

当科の特色

検尿異常に対し必要に応じて腎生検・診断・治療を行います(→P04)

急性期疾患に対応するため急性血液浄化療法を行います(→P04)

慢性腎臓病・慢性腎不全の治療・管理を行います(→P05,06)

チーム医療で患者様をトータルサポートいたします

末期腎不全に対する治療として腹膜透析も積極的に導入しています(→P06)

スタッフ紹介



栄養課 管理栄養士
杉本 篤子

制限するより工夫をすることを考慮し、患者様の食生活に合わせた分かりやすい栄養指導を心がけています。



臨床工学課 臨床工学技師
福山 和男

心・腎センターで安全、安心して治療を受けていただくため、生命維持管理装置の保守管理及び操作を臨床工学技士が担当しています。新しい医療機器や、透析室インシデント・アクシデントの分析による部署学習も開催しております。



南3階病棟師長
矢田部 伸子

患者様の人生に寄り添い支えられるよう、チームで頑張っています。

腎生検・診断・治療について

● 的確な診断で治療方針を決定

検尿異常のあった患者様に対して、必要であれば、腎生検を行います。当院には病理科があり、電子顕微鏡を含め総合的な腎生検診断を行い、早期に治療方針を決定します。

検尿異常 学校検尿 / 健診 / 一般診療

尿潜血2+ or 尿蛋白2+ or 尿潜血1+ / 尿蛋白1+

当院、腎・透析科へご紹介下さい

腎生検で診断される疾患例

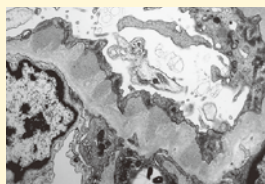
- IgA腎症 ■ 膜性腎症 ■ 微小変化群 ■ 巣状糸球体硬化症
- ANCA関連血管炎 ■ 膜性増殖性腎炎
- 溶連菌感染症後急性糸球体腎炎 ■ アルボート症候群
- 糖尿病性腎症 ■ ループス腎炎 ■ 紫斑病性腎炎
- IgG4関連腎症 ■ 尿管間質性腎炎 ■ 悪性腎硬化症 等



光学顕微鏡、蛍光顕微鏡、電子顕微鏡等により詳しい組織診断の情報が得られ、正確な腎臓病の診断ができるようになります。

電子顕微鏡診断

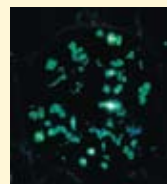
膜性腎症



上皮細胞の下にdeposit基底膜肥厚

蛍光抗体法

IgA腎症



メサンギウム領域IgAの沈着

急性血液浄化療法

集中治療において急性血液浄化は重要な役割を果たしています。

	診療実績	対象疾患
血漿交換(PE)	89	TTP/HUS・多発性硬化症・膠原病など
持続的血液濾過透析(CHDF)	39	多臓器不全・血行動態が不安定な急性腎不全
エンドトキシン吸着	38	敗血症性ショック
顆粒球除去療法(GCAP)	4	関節リウマチ・潰瘍性大腸炎
LDL吸着	4	難治性ネフローゼ症候群・閉塞性動脈硬化症

※2008年～2011年(外来は除く)

慢性腎臓病(CKD)の治療・管理

当院ではCKD(慢性腎臓病)の診断、治療、教育(入院・外来)に積極的に取り組んでいます。

腎臓専門医にご紹介いただきたいタイミング

1. eGFR<50ml/min/1.73m²
70歳以上:eGFR < 40ml/min/1.73m²
2. 2+以上の蛋白尿
3. 尿蛋白と血尿がともに陽性

ちなみに
70歳で
男性Cr>1.4
女性Cr>1.1

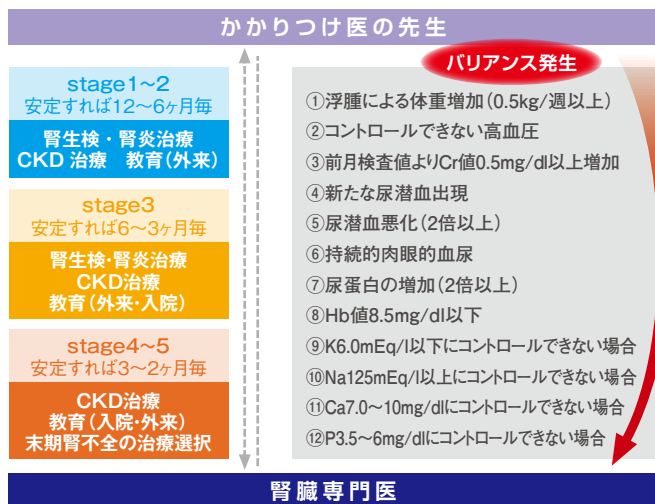
このような患者様はぜひ一度ご紹介下さい

●CKDのステージ分類

病期ステージ	重症度の説明	eGFR (ml/min/1.73m ²)
1	尿蛋白は存在するが、GFRは正常または亢進	≥90
2	尿蛋白が存在し、GFR軽度低下	60~89
3	GFR中等度低下	30~59
4	GFR高度低下	15~29
5	腎不全	<15

●CKD医療連携について

CKD診療ガイドラインに基づき、当院ではかかりつけ医の先生と併診にて治療にあたります。CKDステージにあわせて当院での診察頻度を決めていきます。CKDの進行に応じて栄養指導を行い、きめ細やかな内服調整など専門的な視点で治療を進めます。



【CKD医療連携パスについて】

当院では「CKD医療連携パス」いうファイルを作成し、使用しています。このファイルを患者様に診察ごとに持参いただき、かかりつけ医と専門医が相互に、患者様の治療経過を共有し、診療できるようにしています。

●クリニカルパスを用いた教育入院

この入院では●CKD治療としてきわめて重要な食事管理・血圧管理を患者様自身が治療を理解し、実践する機会を提供します。●尿・血液検査、腎エコーや腎(動脈)エコーなどによりCKDの原因を可能な限り精査します。●心血管疾患の合併がないか検査をします。

■入院スケジュール(例)

入院	内容
1日目	採血/尿検査/栄養指導/食事管理(入院日にご家族にもご説明)/尿量測定/体重測定/血圧測定(入院日に測定方法と手技の確認)
2日目	腎動脈エコー/慢性腎臓病についてのパンフレット読み合わせ
3日目	心エコー/慢性腎不全の病気についてのDVD鑑賞(CKDステージ3~5)
4日目	ABI-PWV/腹膜透析についてのDVD鑑賞(CKDステージ4~5)
5日目	頸動脈エコー/血液透析についてのDVD鑑賞(CKDステージ4~5)
6日目	(必要時)腎移植についてのDVD(CKDステージ4~5)
7日目	薬の説明・運動療法の紹介
必要に応じて	腹膜透析外来見学(PD外来見学)/透析室見学 水分制限についての説明

●CKDステージ4~5の患者様には末期腎不全の治療選択(血液透析・腹膜透析・腎移植)についても紹介をしています。

●3泊4日、6泊7日、13泊14日コースのパスをご用意しております。

※6泊7日が基本ですが、短期入院をご希望の方には3泊4日で行います。教育に時間が必要な場合(高齢の方、CKDステージ5の方)、ゆっくり検査したほうがいい場合などに対応するために、13泊14日間パスもご用意しております。

入院適応など迷われましたらぜひ直通ダイヤルへご相談下さい

tel.070-6802-8170

●しっかりとした連携のもと、チーム医療で行っています

●糖尿病教育入院も行っています

| 末期腎不全の治療・管理

血液透析、腹膜透析、腎移植の腎代替療法について患者様やご家族に十分な情報を提供した上で、ライフスタイルに合わせた治療法を相談し、選択していただいています。特に腹膜透析導入・管理を積極的に行っています。

現在170名以上の維持透析患者様を管理しています。

他院通院中の維持透析患者様に合併した循環器疾患・整形外科疾患・消化器疾患などの入院にも対応します。

シャントPTA・シャント手術困難例にも積極的に対応しています。

循環器内科のご案内

日本循環器専門医研修施設

心大血管リハビリテーション施設基準(I)

緊急時だけでなく、予防から再発を防ぐリハビリまで患者様の「心」をトータルに支えます。

当科の特色

直通ダイヤルにてEasy Accessとしています
tel.070-6543-2148

救急・集中治療に力を入れています

BLS/ALSの普及にも力を入れています
日本救急医学会認定ICLSコースディレクターが
4名在籍しています

血管内治療に力を入れています

下肢救肢チームをつくっています(→P08,09)

不整脈治療に力を入れています(→P09)

非侵襲的検査・心臓リハビリを充実させています(→P10)

透析患者様の心血管系管理に力を入れています(→P09)

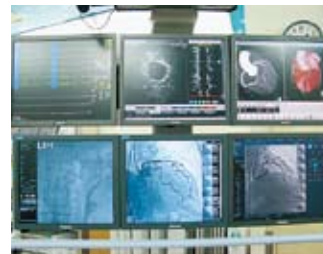
カテーテル室での診療実績

	2011年度	2010年度
冠動脈造影(緊急CAG)	283(20)	333(25)
PCI(緊急PCI)	73(12)	100(17)
IABP/PCPS	4/1	6/2
末梢血管内治療	51	37
電気生理学検査ペースメーカー	5/24	2/17
下大静脈フィルター	6	4
総手術件数	172	174

※2011年度はカテーテル室更新のため、1ヵ月休止しています。

血管内治療について

2011年7月より更新し、新カテーテル室を稼働しています。



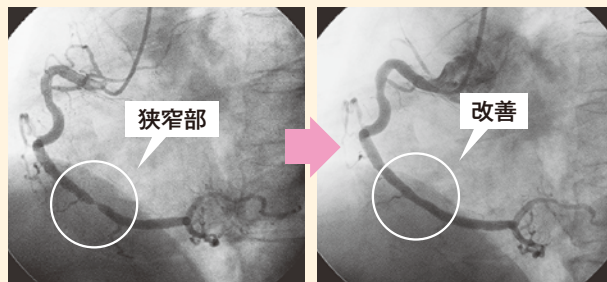
新カテーテル室/血管内心臓カテーテル検査装置(東芝Infinitix Celeve-i)

●血管内治療—心血管インターベンション治療—

薬物治療のみで治療が困難な場合、血行を改善させる治療法として、インターベンション治療を行います。

冠動脈ステント留置術(PCI)

心臓カテーテル検査の結果、冠動脈カテーテル治療が必要とされた場合には、基本的に冠動脈内にステントを留置しています。また、再狭窄を強力に抑える「薬剤溶出性ステント」も扱っております。



動脈硬化により狭窄した右冠動脈

ステント治療後

スタッフ紹介



救急看護
認定看護師
HCU師長
赤木 高司



呼吸器内科・
循環器内科
病棟師長
黒田 由紀子

下肢救肢チームのご紹介

近年、増加の一途をたどる下肢血管内治療にも力をいれています。下肢救肢チームをつくり、血管外科、整形外科、皮膚科、皮膚排泄ケア認定ナースと連携して治療にあたっています。



不整脈治療について

当院では不整脈の患者様を対象に、下記の検査と治療を行っています。

● 心臓電気生理学的検査 (EPS)

その不整脈の原因、発症部位、重症度、薬剤効果などの判定、診断を行い、様々な選択肢の中から最も適した治療方針を決定します。

● ペースメーカー

徐脈の方にはペースメーカーによる治療を行います。

透析患者様の心血管系管理

心血管疾患に対してハイリスクである透析患者様に対して、心疾患を早期に発見し、適切な治療に結びつけることで予後改善をめざしています。また、シャントPTAも行っています。

非侵襲的検査

運動負荷検査、64列マルチスライスCT、心臓核医学検査 (心筋シンチ) を活用しています。

トレッドミル運動負荷試験・運動負荷心エコー

軽く走ってもらう、自転車をこいでもらうなど、少し心臓に負担をかけた時の心電図・心臓エコーをみて、狭心症の早期発見に努めています。

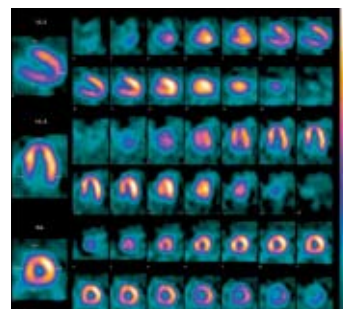


64列マルチスライスCT

1回転するだけで、さまざまな角度からきれいな断層画像が最大64枚撮れるので、冠状動脈の評価が可能となりました。高齢の方や運動負荷に耐えられないかた、無症状で動脈硬化が進行する糖尿病の方などに活用しています。

心臓核医学検査 (心筋シンチ)

生体の機能や代謝を評価できる物質を放射性同位元素で標識し、心筋血流や代謝を画像化します。冠状動脈の狭窄の検出、虚血の範囲・程度・部位の評価、心筋viabilityの評価、などの検査法にはないプラスアルファの特徴を有しています。



心臓リハビリテーション

当院は、心大血管リハビリテーション施設基準 (I) としての認定を受けています。

現在5名の心臓リハビリテーション指導士が在籍し、再発・予防ともに取り組んでいます。

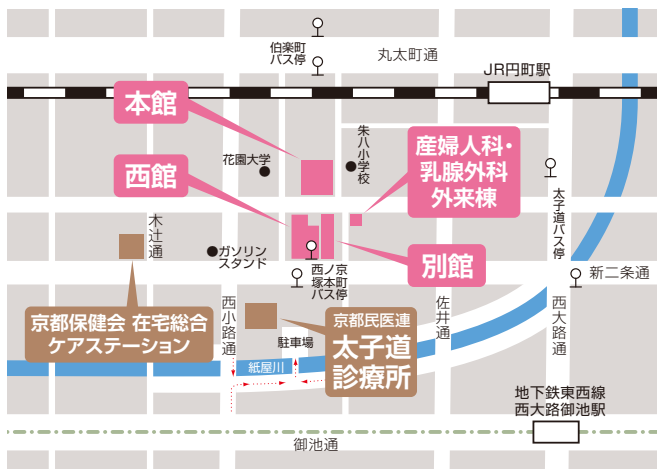


スタッフ紹介



心臓リハビリテーション
指導士
寺崎 珠

患者様の状態に合わせてリハビリを実施しています。生活指導・運動指導を行いながら、QOLの向上を目指しています。



I N F O R M A T I O N

京都民医連中央病院 腎循環器センター

当センターは「地域の心・腎セーフティネット」を目指しています。
ご相談のみでもお気軽にご連絡下さい。

循環器内科直通ダイヤル

070-6543-2148

腎臓内科直通ダイヤル

070-6802-8170

地域医療連携課

TEL.075-822-2830 FAX.075-822-2587

公益社団法人 京都保健会



京都民医連中央病院

〒604-8453 京都市中京区西ノ京春日町16番地の1

TEL.075-822-2777 FAX.075-822-2575



厚生労働省指定基幹型臨床研修病院 救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院 (ver.6.0)



ISO 9001 認証取得

特定非営利活動法人
卒後臨床研修評価機構認定病院